

受付番号

## 留学・研究計画書

氏名 佐久間香子	留学機関名 マレーシア・サラワク大学東アジア研究所
留学先国名 マレーシア	留学期間 西暦 2010年3月～2011年4月
研究テーマ マレーシア先住民社会における非木材林産物の利用と生存戦略に関する人類学的研究	
研究テーマの説明 (テーマの学術的・社会的意義についても記載してください)	
<p>本研究目的は、マレーシア・サラワク州（ボルネオ島）における自然保護区指定の影響を受けた先住民社会を対象に、人類学的視点から実証的データに基づいて、彼らの森林資源利用の変化と生存戦略を明らかにすることである。その際、森林資源の中でも、サラワク先住民社会においてこれまで交易品や威信財として、先住民諸集団の内部と外部の社会的ネットワークの構築に重要な役割を果たしてきた非木材林産物の利用に注目する。具体的には、(1) フィールドワークを実施して当該社会の生業経済全体に占める非木材林産物の取引の割合や社会的意義の位置づけに関する実証的データの収集と分析を行うと共に、(2) 林産物取引を通じた外部諸集団との社会関係の歴史を、森林政策や先住民への近代化政策、そして資源の市場価値の変動と関連付けて考察する。</p> <p>熱帯雨林における生物多様性の消失は、こんにちの最も重要な地球規模の課題である。そうした中、生物多様性を保全しながら森林を利用する仕組みが必要とされている。そのためには、保護対象地域における生態系や資源の利用・管理の主体や方法、加えて保護区整備後の当該社会の変化と対応を明らかにする必要がある。サラワク州内陸部の先住民社会は、様々な民族集団が分裂や混交などによる離合集散的な再編成を繰り返してきた歴史的経緯があり、その過程において複数の他集団との間での重層的な森林及び資源利用のもとに多様な社会的ネットワークが構築されていた。申請者は、このよう地域における自然保護区の管理には、先住民社会の資源利用に関する民族誌的データが重要だと考える。</p> <p>申請者は修士課程で、グヌン・ムル国立公園を対象地として、生活に利用していた森林が国立公園に指定されたことによるブラワン人社会の変化および、ボルネオの採集狩猟民として有名なプナン人の村との社会関係を中心に調査をおこなった。その結果、国立公園に指定される以前には、ブラワン人とプナン人は生業形態の違いに基づいて分業、共存し、林産物の取引や農繁期における労働の交換などの社会的関係が築かれていたことを明らかになった。しかし、ブラワン人の資源利用はプナン人との間だけではなく、資源の特質によってより多様な採集や管理の方法や取引のネットワークが形成されており、それを明らかにするという重要な課題が残った。それゆえ申請者は、州都クチンにおける公刊・未公刊の文書資料の収集及びブラワン人集落における1年をとおした現地調査を実施して、プナン人との関係に加えて、資源の採集・取引に焦点をあてた様々な他集団間との社会ネットワークの中から、ブラワン人の生業経済基盤の変容と生存戦略を明らかにすることを強く希望する。</p> <p>非木材林産物利用の変化から自然保護区周辺先住民の生存戦略を明らかにすることは、その社会における人と資源との文化的・歴史的背景を明らかにすることでもある。近年の民族誌的研究では、先住民社会に内在する多様な関係性のネットワークが明らかにされるようになってきたが、それらが自然保護区の管理に反映されることはほとんどなかった。本研究はその意味で、自然保護区と共に暮らす先住民社会の具体的な事例を提示するものとして、環境問題に取り組む人類学的研究に大きく寄与するものであると同時に、熱帯雨林地域における人間の活動も射程に含めた保全に提言可能な基礎的な研究となると考える。</p>	